

学校教育目標 1 向上・学びあい 2 敬愛・思いやり 3 共生・責任

目指す学校像(ビジョン)

【目指す学校像】
 ・生徒が生き生きと学び活動する学校 ・保護者が安心して子供を任せられる学校
 ・教職員が教えることに喜びを感じる学校 ・地域が誇れる地域に根差した学校

【目指す生徒像】 1 公正な判断力と授業等への集中力 2 「挨拶・時間・美化」の実践力 3 人のために行動する力
 4 対人関係調整能力 5 困難に耐える力

【目指す教師像】 1 生徒理解力を有する教師 2 教科専門力を有する教師
 3 生徒・保護者から信頼される教師 4 教育公務員としての責任が果たせる教師

前年度までの学校経営上の成果と課題

成果 1. 人権意識(自尊感情)の向上 2. 親和的な学級づくり 3. 学力調査の結果に見られる学力の向上
 課題 1. 分かる授業実践 2. 不登校対応 3. 学習習慣の確立 4. 保護者・地域の学校への関心

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	取組指標		成果指標		分析
				対象	評価	対象	評価	
確かな学力(知)	学習意欲と基礎学力の向上	各教科の授業時間の確保を図る。	授業時数の確保	教員	96.2% (T1)	教務	100%	感染症による臨時休校や急な変更も少なく、年度当初に計画した授業時数を確保し、実践できた。家庭での健康管理が十分にされていること、また教員間の連携が図れていることも大きい。
		各教科の授業改善を図る。	指導法・評価法の創意工夫による、生徒が『分かりやすく工夫された』と感じる授業実践	教員	96.6% (T2) 92.6% (T3)	生徒・保護者	92.3% (S1) 66.3% (P1) 63.0% (P2)	研究発表に向けて、「学習者が主体となる授業実践」に取り組んできた。また、日頃からESDを意識した授業実践に取り組んでいる成果は大きい。生徒のポイントも昨年度より3ポイント上がっていることから、生徒の実態に合わせ、個に応じた分かりやすい授業展開がなされていると分析できる。
			授業研究の全員実施(随時訪問申請・年次研修・中教研・指導室訪問等)	教員	100%	教員	62.0% (実績)	校内研では、積極的に授業を見合う実践に取り組んできたが、研究授業の実施は6割程度となっている。育てたい生徒に必要な資質・能力の育成、教員の授業力向上のためにも、校内研の充実を図る必要がある。
			指導評価計画・週案簿計画・授業改善推進プランによる指導	教員	92.0% (T6)	生徒	92.3% (S1)	4月に各教科の指導計画を確認し、1年間を見通した授業計画を実践することができている。また、週案を使用し、生徒の様子や授業改善を行うことができている。生徒も肯定的に感じている。
			ICT機器を活用した、主体的・協動的な授業実践	教員	96.3% (T11)	保護者	52.0% (P7)	協働学習ツールとしてのミライシードやチームスによるアンケート集計など、iPadを活用した授業展開を意識的に行っている。生徒の活用頻度も上がっている。保護者の結果が半数にとどまっているのは、家庭学習の中に活用する機会が少ないことも要因と考えられる。
		少人数学習集団による指導を実施する。	数学・英語で習熟度や課題別等の指導の実施	教員	95.5% (T7)	生徒・保護者	81.5% (S2) 57.3% (P3)	数学・英語ともに評価計画に沿って、少人数学習集団による指導を行うことができている。生徒の実態に合わせて、習熟度別及び少人数による授業形態が定着している。
		言語活動の充実を図る。	記録・要約・説明・発表・討論・ノート記述・レポート作成・論述等の言語活動を授業に取り入れる。	教員	92.6% (T8)	生徒・保護者	74.6% (S3) 46.4% (P4)	定期考査以外の評価材料として、発表や討論、レポート記述等が増えているのが実状ではあるが、生徒や保護者のポイントは低い。質問の中で、「昨年度より多くなっている」とあり、答えに差異が出ていると考えられる。
		学習習慣の定着を推進する。	家庭学習を(塾に行っている時間を含む)、毎日学年+1時間を目標に取り組んでいる。	教員	81.5% (T12)	生徒・保護者	45.4% (S4) 27.2% (P8)	生徒、保護者ともポイントが低い傾向は変わらない。家庭学習の定着を図るため、宿題や課題の提出など定期的に行っているが、生徒の自主的な学びを重視する昨今、強制的と感じる宿題ではない方策を模索する必要がある時期にきているのではないかと考えられる。

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	取組指標		成果指標		分 析	
				対象	評価	対象	評価		
豊かな心・健やかな体（徳・体）	人権教育推進と規範意識の確立	基本的な生活姿勢の形成を図る。	生き方指導を実践する。	年間指導計画を推進し、自己理解・判断力や望ましい職業観の形成	教員	88.0% (T13)	生徒・保護者	79.8% (S5) 57.6% (P9)	年間指導計画をもとに「3年間を通してのキャリア教育」の中で、生き方に関する指導実践に取り組んでいる。保護者のポイントも昨年度より5ポイント増えている、地域と連携した体験的な取り組みの工夫が理解されていることと表れと考えられる。
			基本的な学習姿勢の形成を図る。	授業秩序の形成	教員	92.3% (T17)	生徒・保護者	79.0% (S6) 90.4% (S7) 68.7% (P12) 67.4% (P13)	授業に向き合う姿勢が整っており、授業秩序が保たれた授業展開ができている。授業時数が確保され、教育計画が実行できているのも、授業を大切に基本意識が教員、生徒、保護者間で高いと推測できる。
			基本的な生活習慣の定着指導	教員	89.7% (T18)	生徒・保護者	90.3% (S7) 92.2% (S8) 71.1% (P14)	あいさつ、時間、身だしなみといった基本的なモラルやルールといったことが大切な基盤であることを教員、生徒、保護者の三者が理解していることが分かる。一方で、一定数いる、指導しきれていない、守れていないと感じる少数に対して、学校全体でどうアプローチしていくかを考える必要がある。	
			いじめ、不登校等の生活指導について、生活指導連絡会、学年会等の情報交換、対応策の検討実施	教員	93.1% (T14) 89.7% (T15)	生徒・保護者	88.0% (S9) 50.7% (P11)	不登校巡回教員を活用した不登校生徒をとりこぼさない対応といじめ防止のための報告会を機能させた情報交換を行い、いじめ、不登校に対して、学校全体で対応している。保護者、生徒ともにポイントは上昇していて、学校での取り組みを理解し、支持していると表れと考える。	
			道徳等人権教育の全体計画や年間指導計画及び実態に合わせた重点に基づいた指導	教員	100% (T16)	生徒	83.5% (S10)	年間指導計画に基づいて実践できている。出前授業や体験的な取り組みとともに、生徒の実態に合わせて題材設定の工夫と様々な教育活動の場面で連動させた道徳教育を推進していく。	
		自尊感情を育てる。（一人一人に目を向けた指導）	一人一人の生徒の良さを褒め、認め、力を引き出す指導	教員	93.1% (T19)	生徒・保護者	88.3% (S11) 77.6% (P11)	本校の重点目標の一つとして、生徒一人一人に応じた指導ができている。教員の意識も高く、各種機関と連携した情報交換ができている。生徒、保護者ともにポイントは上昇しており、継続的な指導に理解を示していると考えられる。	
			昨年に比べて、自信をもって取り組めることができた	保護者	76.2% (P15)	生徒	80.9% (S12)	生徒は3ポイントほど上がっており、学校で培った力が自信につながり始めていると推測できる。保護者もポイントは上昇していて、家庭での生徒の様子を肯定的に感じていると思われる。	
		行事や生徒会委員会活動、部活動を通し協調性や充実感の向上を図る。	生徒の積極的な行事への取り組みを進め、参加意欲の向上	教員	92.6% (T20)	生徒・保護者	87.7% (S13) 76.2% (P15)	集団への帰属意識や全力を尽くすことの大切さを学べる行事を通して得る力は大きい。特に宿泊行事、体育祭、合唱祭といった行事を通じて、異学年交流を深めることができた。	
			生徒会朝会を始め定例の専門委員会など、活発な生徒会・委員会活動の実施	教員	92.9% (T21)	生徒・保護者	87.1% (S15) 76.2% (P15)	生徒は定期的な専門委員会の活動を中心に、生徒会活動に積極的に取り組んでいる。生徒会長サミットや小6紹介など生徒会役員の頑張りが大きい。	
			部活動を通じた良好な人間関係の構築	教員	88.9% (T22) 82.8% (T23) 85.2% (T24)	生徒・保護者	83.0% (S14) 83.1% (P16) 63.1% (P17)	1年生はポイントは上昇しているが、2、3年生のポイントは昨年度より下がっている。生徒の実情に合った取り組みや声かけが必要。	
		特別支援学級との交流を図る。	行事と授業の交流（生徒と教師の交流）	教員	88.9% (T25)	生徒	79.0% (S17)	教員と生徒間の差異を感じる。特に特別支援級の生徒のポイントが低い。特別支援級との行事等での関わりがコロナを境に少なくなっている。	

領域	中期経営 目標	短期経営 目標	具体的方策	取組指標		成果指標		分 析
				対象	評価	対象	評価	
保護者・地域との連携	開かれた学校づくりの推進	学校からの情報発信に努める。	学校だよりや学年だより等、ホームページによる情報の公開	教員	89.7% (T26) 89.3% (T28)	生徒・保護者	55.2% (S16) 71.3% (P18)	教員と生徒・保護者間の差異を感じる。学校だよりや学年だよりなど保護者の手元に届いていないことが推測される。より一層の積極的な周知を呼びかけたい。
			年5回の学校公開週間・道徳授業地区公開講座を含む、3回の土曜授業参観及び保護者会の実施	教員	89.3% (T29)	保護者	67.0% (P20)	平日の公開は、参加数が少ない。保護者会や土曜参観の参観数は、コロナ後増えてきている。
			地域人材を積極的に活用した授業実践	教員	93.1% (T27)	保護者	43.8% (P19)	教員、保護者とも昨年に比べ、ポイントは上昇している。学校での取り組みを支援している表れと考える。
			「一中ゾーン」としてのコミュニティスクールの取り組みにより地域連携を図る	/	/	保護者	45.5% (P21)	昨年度に比べ、ポイントは上昇している。特に1、3年生は、半数が「一中ゾーン」としての連携を知っている。一方で、2学年は、3割程度にとどまっている。学年間での差異を感じる。情報発信の工夫が必要。

【CS委員から】

- 児童・生徒の挨拶が素晴らしい。地域であったとき元気に挨拶を交わしてくれ、気持ち良い。
- 授業の様子は家庭にはよくわからない。わからないが、学校を信頼している人は多い。楽しく学校に通えていればそれで良いと感じる。
- アンケートの分母の表示がないため、結果が分かりづらい部分がある。
- アンケートの中に「わからない」という項目を入れてもよい。学年が上がるにつれて「わからない」が上がるだろうが上記の通り、学校を信頼していればそれでよい。
- 保護者のポイントより児童・生徒のポイントが高いかどうかの方が大切ではないか。
- アンケートの内容を精選してもよいと思う。例えば、家庭学習が“学年＋1”はハードルが高いのではないか。